



# 茗台中だより

教育目標

○自ら考え、学習に励む人 ○思いやりと自主自律の心をもつ人 ○心も体もたくましく、進んで行動する人

4月号

令和6年4月15日発行  
文京区立茗台中学校



## 新年度を迎えて

～習慣を身に付けよう～

校長 今野 稔恵

満開の桜とともに新年度が始まりました。新しい出会いの季節、希望と期待が高まる季節です。本校は、新入生88名を迎え、全校生徒293名で歩み始めます。保護者の皆様、お子様のご入学、ご進級、誠におめでとうございます。始業式、入学式を迎えた子供たちから、緊張しながらも友達や新しい担任の先生との出会い、これから始まる学校生活を楽しみにしている様子が伝わってきました。

この度、西貝 裕武 校長の後任として着任いたしました、今野 稔恵（この としえ）でございます。子供たちには、義務教育の最後の3年間である中学校において、人生をより良く生きるための土台を築き、激動する社会状況下においても社会の担い手として活躍できる人になってほしいと願っております。そのために、本校の教育目標である「自ら考え、学習に励む人」「思いやりと自主自律の心をもつ人」「心も体もたくましく、進んで行動する人」の下、周りの人との関わり合いも大切にしながら全ての子供たちの可能性を引き出すための教育活動を教職員が一丸となって進め、学び高め合う楽しく活気ある「輝く茗台中 さわやかな茗台生」をつくってまいります。これまでの本校64年間の歴史と伝統を築いてこられた卒業生、保護者・地域の皆様のより一層のご理解・ご支援をよろしくお願いいたします。

人生をよりよく生きるための土台づくりには、習慣を身に付けることや当たり前のことを当たり前にできることが大切であると考えます。そこで、入学式における式辞にて、習慣を身に付ける大切さについて子供たちに伝えました。該当箇所を抜粋してご紹介します。「文京区にゆかりのある俳人、歌人である正岡子規は、晩年、日記形式で綴った随筆の中で、「何でも子供の時に親しく見聞きした事は自ら習慣となるやうである。」と記しています。中学校生活は、たくさん経験や挑戦が待っています。その中から、皆さんには、自ら興味・関心をもって取り組みたいと思えることを見付け、日頃から繰り返し活動したり学んだりしてほしいと願います。時には、失敗したり、困難に直面したりして諦めたくなることもあるでしょう。けれども、繰り返し行うことで、それはいずれ気付けば習慣となっているはずです。「人生100年時代」、「超スマート社会（Society5.0）」に向けて社会が大きな転換点を迎え、生涯学習の重要性が高まっていることを踏まえると、努力と根気をもって、決めたことを継続して取り組む姿勢を身に付けておくことは、皆さんが成長していく中で、生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習したいという思いをもったときに、きっと自らを助けてくれるものとなるはずです。」本校では、小さな積み重ねや習慣、周りの人との関わり合いを大切にすることを通して、子供たちの大きな成長を支えてまいります。